

## 野依良治特任教授が、総合学術研究科第13回セミナーで

### 2014年ノーベル物理学賞をテーマに講演

大学院総合学術研究科は1月26日、同研究科特任教授の野依良治氏(理化学研究所長、名古屋大学特別教授、2001年ノーベル化学賞受賞)を招き、「野依セミナー」を開催しました。同セミナーは、2002年度から毎年行われており今回で13回目。野依特任教授は、赤崎勇終身教授、天野浩名古屋大学教授(元名城大学教授)らが共同受賞した2014年ノーベル物理学賞をテーマに講演し、会場のレセプションホールは約90人の学生、教職員らで埋まりました。



招待講演では、赤崎研究室のスタッフの1人である理工学部材料機能工学科の竹内哲也准教授が、「窒化物半導体青色LEDにおける重要技術と次世代発光デバイスの展望」をテーマに話題提供。自身の名城大学大学院生時代の赤崎教授や天野教授との思い出も語られ、参加者は興味深く耳を傾けていました。

野依特任教授は2014年ノーベル物理学賞について、「社会へ多大な貢献をした素晴らしい功績によるもの」と賛辞を贈り、講演の中で「実社会において研究成果を生かすためには、常に異分野との交流を持ち、ネットワークを形成しておく必要がある」「諸分野を融合させ、課題に取り組むべき」と指摘。「研究はオリジナルであることが重要であり、自己の研究に自信をもち、世界へ発信して欲しい」と若い研究者や学生たちに熱いエールを送りました。

